

東部日本語ボランティアネットワーク 第21回定例会議事録

2017年12月9日(土) 14:00~16:00 三島本町タワー

【参加者】16名 (のびっこ) 石井/渡辺/佐野、(富士宮) 望月/佐野/垣内、(富士) 小川、(沼津) 虎谷/芦川/相田、(裾野) 佐野、(伊豆の国) 久木野、(SIR) 古橋、(個人) 西村、(アモール) 國井/柴本(以上敬称略)

お知らせ(相田)

・新技能実習生法案

11/1から施行され、「介護」が職種として加わった。

元々どのような職種があるのか知らなかったので調べてみた。皆さんも参考にご覧ください。(技能実習2号(2,3年目)の74職種133作業の資料をプリントでシェア)

日本人のやりたがらない仕事をやってくださっていることに感謝。身の回りで介護の実習生に関する情報がありましたらシェアをお願いします。

・移民の定義

国際移民の法的定義はないものの、多くの専門家は3カ月から12カ月間くらいの移住を一時的移住、1年以上に移住を恒久移住と呼んでいるとのこと。この恒久移住を移民とするなら、実習生、留学生は移民ということになる。どんどん増えている。

(1) 各団体活動報告

沼津にほんご教室(相田)

- ・学習者は20~30人くらい。学習時間(1時間半)の最後の15分に、受付が担当してゲームを通じた交流を行うという取組みを継続している。(テキストの課グループごとに説明してから全体で。しりとり、歌等)
- ・会の運営に関する話。運営に関する大事な決定については、部会員全員の多数決で決めるというシステムを数年前に作ったという経緯がある。先日部会に私が出席した時に、次期部会長の選出方法を前月に変えたという話を突然聞かされて、それは多数決のシステムを適用して決めたほうがいいのかという提案をして、適用することになったということがあった。この件について思ったこと。

多数決で決めるというシステムを作ったのは良いが、やはり適用方法まで決めるべきかと思った。理由は適用の判断が正常になされなかった時に、あらためて覆すと、一度決めた手続きを大事にしたい人、その他の人の両方にストレスになることがあるため。適用方法も決めて機械的に対応した方が納得感が高いのかなと思った。ただ私個人的には、手続きを決めることが多少煩雑になったとしても違和感がないが、皆さんがどういう感覚を持っているかはわからないので、難しさを感じた。前月その場にいながら次期部会長の選出方法を変えたということ自体、私が言って初めて理解された方もいたので、自分が当事者にならない限り関心を持ってない、忘れてしまっているという事情もあると思う。やはり一人ひとり関心を持つこと、示すことが大事だと思った。

ちなみに多数決のシステムを作った理由としては、これは部会内で合わせた認識では無いが、二つあると思っている。一つは、沼津は部会員が50人ほど多いので、皆さんの納得感をその場で確認し、合意形成するのは難しいのではということ。欠席者も半分位はいますし。もう一つの理由は、会の長が最終判断する方法も、全員の平均的な納得感が低くなってしまふ場合が生じる懸念があるのと、役割分担を推進していることもあって、そこまで責任を負わせるのもあまり良い方法ではないのではということもある。改善案があれば考えたいので、参考になるお話がありましたら下さい。

SIR（古橋）

○日本語ボランティアセミナーの案内（1/8）

- ・分科会 A で伊豆の国市の国際交流協会会長の久木野さんに発表していただきます。
- ・県下一斉で日本語ボランティアが集まる機会という事で年 1 回開催しています。よろしくお願ひします。

○子どものための日本語学習支援基金

目的：外国につながる子ども（※）の日本語学習環境をより一層充実させること。

※外国につながる 5～18 歳（就学 1 年前～高校生）。19 歳の高校生などは対象になる。

期間：3 年間

事業ではなく基金である。県が 1 千万円（3 年）を拠出して、それを呼び水とし、企業等からの寄付金を募る。

1. 日本語学習指導者派遣事業（対象：外国人学校）

- ・日本語学習指導者を派遣し、外国人学校における日本語学習環境の充実を図る

以下 2～4 が日本語ボランティアに関係する。

2. 日本語学習教材給付事業

日本語教室：団体に対して助成金を出す。500 円×子どもの人数（最大 1 万円）。

外国人学校：在籍人数の制限無しで子どもに現物支給する。

教室に来る学習者の人数は流動的であるという現実を考慮している。申請時における子どもの人数が、その後も継続することを保障する必要は無い。

3. 日本語能力試験受験料助成事業

- ・日本語学校に通っている子ども（実習生は対象外）が試験を受けて合格した場合、5500 円分のプリペイドカードを授与する。N5～N1 のすべてが対象。年 2 回でも授与可。
- ・H30 年度 7 月には対象になる予定。

4. 提案型助成事業

- ・企業等から集まった寄付の額に応じて、地域の皆さんに事業の募集をする。上記 1～3 と異なり、地域の皆さんから事業内容を提案する。額に応じてなので現段階では決定事項は無い。寄付金が集まり次第、運営委員会に諮られて、決定した後に助成となる。その時に周知する。
- ・総事業費の 8 割を助成する。コーディネーター費等人件費を込みとする見込み。
- ・テーマは①日本語学習支援、②キャリア教育支援、③地域住民との交流、④子どもの居場所づくりの四つ。これらを目的とした事業を募集する。

1 期（3 年）実施後は未定。愛知県はすでに何期か継続している。

近いうちに正式に周知される予定です。

○日本語教室の開設について皆さんの意見うかがい

文化庁がどの地域にも日本語教室を一つは作って欲しいといっている。静岡には一つも無い自治体（市町村）が結構あり、特に東部が多い。実習生が他市町の教室に自転車で 1 時間かけてきているという話を聞くこともある。皆さんの印象で、ここに日本語教室があればという市町村はありますか？もし外国人の学びたいという声があるにもかかわらず、教室は無いという地域があれば、行政単位で教室の創設に関心があるかという働きかけが出来ます。

⇒函南町と伊豆市。御殿場は単発の募集はあるが、随時対応できる教室は無い。

(久木野) 函南についてはできれば創設したいという気持ちはあるようだが、伊豆の国で見学した上で、自主的な創設はとても出来そうに無いという見解のようだった。

(古橋) 東部は西部に比べると規模が小さいため、強い要請が上がりづらい。熱海などで増えてくるという話もあるが規模は小さい。

(久木野) 伊豆にはいちご、トマトなどの農作業に従事する外国人もいる。パートで季節ごとに雇うと次には来てくれないので常時雇っているが、コスト高になるので、経営者が外国人を安く1年中雇うことを考えるという構造がある。

(相田) 最近はネットを活用した学習手段も一般的になってきている。理想的には顔合わせで教えるのと、ハイブリッドでどちらも出来るとよいが、東部が散在地域であることも考慮するといずれにしろネットを活用した学習は大事だと思う。文化庁でそちらに取り組むという動きは無いのですか？

(古橋) この案件とは別にある。むしろこの案件では日本語を学ぶというよりは、もう少し多文化共生に意識をおいていると思う。週1、2回継続的に通って検定などを目指す人もいるとは思いますが、生活をする上での相談などもできる場を作りたい。日本語の技術を上げるよりは、日本を知るだとか居場所としての位置づけと考えている。外国人が問題を抱えていることに気づくことが出来、必要な対応の判断で力になる等のこともできるし、災害時などの対応なども含めて考えると、日ごろから風通しの良い環境を作っておくことが、日本人にも外国人にも重要だと思う。そこで一つのキーワードになるのが日本語である。日本語教室が無い地域で、実習生が事件を起こしてしまう問題があるという背景もあり、そういう地域を減らしていきたいという動きがある。ただ個人的には日本語教室が無いからといって問題がある、あるいは多文化共生が遅れているとは思っていない。実際にうまく行っているところはいくらかもある。ただ日本語教室を設置する事で、一つの指標としてより良い環境になるし、外国人が相談しやすいそういった場があると良いとおもう。ここにぜひ作って欲しいという要望があればご相談ください。

(渡辺他) 交代勤務の人などもいるので、やはり近くにあるのが良い。できれば複数の教室があり、時間、場所など複数の選択肢があると良い。学習者の時間に合わせられる三島のような方法も良い。外国人が来たときにすぐにボランティアに相談できる環境はとても大事です。住民の意識も変わらと思う。

(古橋) 教室を立ち上げるだけならできるが、5年10年継続して地域に意識を広げていって初めて意味を持ってくるので難しいと感じる。

(渡辺他) 御殿場はとても広いので、ふじさん教室があるものの、そこにいけない外国人も沢山いて、実習生も増えている。ぜひ作って欲しい。沼津よりも多い。

沼津にほんご教室、親子にほんごひろば、静岡県静東教育事務所の日本語支援コーディネータ (虎谷)

○親子にほんごひろば

人数が伸び悩んでいる。定着しない。今沢と第5地区センターで開催している。新規入会者は来るが定着しない。継続的に出来ないのが問題と思っている。出席者には学校の宿題や初期支援をする。隔週なので定着しない。特に初期支援は短期集中、継続が必要なのに続かない。教科支援についてもみにつかないのか。

のびっこクラブみしま (石井)

1、7月から11月

のびっこクラブ

・7/8 セタパーティー、7/15 プログラミング教室 (ことば館「新海誠展」)

夏休み 受験生特別勉強会

10/14 ハロウィンパーティー、10/28.29 富桜祭、11/26 グローバルフェスタみしま

*受験生特別勉強会開催…アモール受験生グループからの提案による

市民活動センター平日1時～3時 19回

*グローバルフェスタみしま…

共催：異文化理解体験講座「世界を聞こう・見よう・食べよう」楽寿園賑わい創出実行委員会

協賛：青年海外協力隊静岡OB会

のびっこブース…活動展示・説明 (アモール)、世界のクイズ (学習者)

・菊まつり&餃子フェス開催中で来場者が多かった (3,265人)

・活動の周知ができた、学習者は教室ではできない市民との交流ができた、クイズ〇

のびっこクラブ (土曜日) のようす

子ども (~高校生) …ブラジル(増加)ペルー、フィリピン、アルゼンチン、ボリビア、日本

大人… インドネシア (実習生)、中国、ベトナム、ブラジル、ボリビア…JLPT、漢字

行事には参加?… スリランカ、ベネズエラ

のびっこクラブ…10人~15人/1回

*年齢や勉強にくる目的が多様になった。→アモールが3つのグループにわかれて対応

*自由参加の課外活動が増えた…交流・楽しみ・発見 →エンパワメントに

…児童養護施設セタ、箱根花火大会、源兵衛川ウォーク、ビュフェ美術館、

三島バル、バンドネオン、ハロウィンパレード手伝い、ベトナムフェア、など

*就学年齢超過で来日した子の支援…7月発見→夏休み&平日、大原、JLPT受験、高校

*学習者聴き取り票を作成中 DLA 語彙カード

子どもは、早期発見
と継続支援の必要性

クラスぽよ

・今年長伏小2年生1人 毎週1回1時間 授業取り出し 教科支援 (算数・漢字)

漢字教材は東京外大タガログ語付きのものを使用…親を考慮

・最近、子どもから「来年もやりたい」と言ってきた

・クラスまで迎えに行き、終わったら送る…そこで担任と連携 クラスでの様子がわかる

・クラスの雰囲気がとても良い…「いってらっしゃい」「おかえり」

・記録はのびっこシートを使用

その他

・不登校問題・家庭の問題…青少年相談室と連携 →学校・家庭児童相談・児相

…しょうがい福祉課と連携 →学校・ワーカー・病院

*のびっこでは、どこの部分でサポートできるか…勉強を軸に・傾聴・専門家と

*不登校=ひきこもり →のびっこやイベントには来るように、OBからの助言も

・子育てを終えた親への支援…不定愁訴→病院付添い→投薬・改善

伊豆の国市国際交流協会（久木野）

- ・ 日本語話そう会を毎週火曜夜開催している。目的は試験に受かることなどではなく、日本語を楽しみながら話をするを主として活動している。レベルに合わせてテキストやカードを使ったり、ゲームをしたりしている。
- ・ イベント的に芋ほり、バス旅行、書初め、お茶なども活動に交えた。
- ・ 実習生は景気が良いせいか残業であまり来られなくなっている。ALT の方たちも学校が安い会社と契約したがるせいもあってか、あまり長くいない。これらの事情もあり年度後半になるにつれて、来る外国人がだんだん少なくなる。
- ・ 実習生の国籍はベトナム人が少し増えて、インドネシアの方は残業が多くて減った。ALT は各国より来ている。
- ・ 実習生は帰国してから日本語を生かして良い仕事に就くというのはなくなってきていて、日本で稼ぐことのみを重視するという考え方になってきているようである。そういった事情であまり勉強をしなくてもという意識になっているように見える。
- ・ 伊豆の国市は外国人登録している人は 400 人くらい。そういう方はほとんど来ない。
- ・ 函南と富士宮の国際交流協会の方が来て見学をしていかれたが、姉妹都市との交流などがメインであり、日本語教室をやるのは難しいという印象をもたれた様子である。
- ・ 12/3 で創立 25 周年になりずっと続けてきたので、これからも続けていきたい。

裾野市海外友好協会（佐野）

- ・ 多文化共生委員会の中で英会話教室、日本語教室、韓国語教室、交流サロンと別れて活動している。
- ・ 日本語教室は 20 年ほど活動している。基本的に小学生は受けないというか来ないので、中学生から教えている。伊豆の国同様、インドネシアの方が減ってベトナムの方が増えている。長泉と御殿場の方が、通常の教室がないので来ている。沼津の方も来ている。
- ・ 2 年前から無料にしたら生徒が増えたが、定着せず、1 ヶ月ほどでメンバーががらっと変わることもある。先生も 15 人のスタッフがいて 4 グループに分けているが、誰が来ているかわからなくなるので引継ぎを大事にしている。
- ・ 内容は日本語の会話や、みんなの日本語を使った指導をしている。月に 1 回ほど、4 グループ全員でやるイベントをしていて、7 月は七夕をやった。11 月には折り紙を作った。正月は習字をする。
- ・ 12/5 に防災訓練をした。やさしい日本語の防災ガイドを使ってやったが、初心者にはまだ難しい様子。
- ・ 実習生がやはり多いが、以前に比べ、最近の実習生はあまり勉強せずに来ている感じがする。
- ・ 教室は駅から遠い場所で（徒歩 20 分くらい）やっているが、日本語を勉強したいとあって来てくれるのでありがたい。
- ・ 市から委託金もいただいており、恵まれていてありがたい。日曜日は毎週やっている。

沼津で日本語学校開設準備中（西村）

○実習生について

- ・ 仕事としての関わりでもあるが、まずは地域の人と関わっていき、支援をしていきたいという個人的な想いがある。

- ・ 仕事柄実習生に関わるが、佐野さんの話された最近の実習生はあまり勉強せずに来ている感じがするということについて、要は送り出し機関も、日本からの要請が多すぎて養成が間に合わずに送り出しているという事情がある。介護については、留学生と実習生の送り出し機関が同じなのだが、話を聞くと実習生はハードルが高いなどの理由であまり行かないのではないかという話も聞いている。ただ問い合わせはあることも聞いている。そういった動きを見守りながらどういったことが自分の立場で出来るかを考えている。
- ・ 実習生はどんどん地域に入ってきて住んでいて、人数も増えているという現実がある。コンビニ業界が実習生を入れたいという話等も聞いているが、計画的にやっていかないとと思う。自分が出来ることは限られている中で、皆さんも努力している中で自分なりにやって行きたい。

○やさしいにほんごについて

- ・ 前回やさしい日本語をがんばろうについての取り組みの話をした。8/下旬に東京の武蔵野大学で「未来の先生展」が行われた。オンラインで作っている日本語教師仲間と出展をし、虎谷さんに来ていただき、日本語支援の話をしていただき本当に良かった。ワークショップを行い、学校で使う言葉などの紹介をした。活動の輪が広がっていけばよいと思っている。
- ・ そもそもやさしい日本語については仕事でやろうと思っていたが、担当者が変わったため中断していて、その事に関わった方に言ったところ、東部に日本語教師になる勉強をしていてボランティアをしたい型がいるという話もあるので、必要なところに紹介したいと思っている。

○遠隔教育について

- ・ 自分の専門性としては遠隔教育というのをやっている。その場にある時間ある場所に集まれない方に、教育が行き届かないというのがジレンマとしてあるが、こうやればうまく行く可能性があるなどというところまで来た。オンラインの仲間もこういう手を使わない手は無いと言っていたのに触発され、自分も技術を使って出来ることがあればやっていきたいと思っている。皆さんもやりたいことがありましたらお声かけください。

○その他

- ・ 日本語教育学会が新潟県でやっていて、オンライン参加した。新しいつながりが出来た。

のびっこクラブみしま (佐野)

外国人に関わる活動は SIR に 3 月頃に問い合わせ始めて始めたばかりです。40 年ほど子供達の英会話スクールを経営しており、その中で色んな子供達と出会って、できれば広いテーマとして子供の教育に関わっていききたい、日本語を共有しながら過ごせれば良いなという気持ちを持った。SIR からいくつかの団体を紹介してもらったが、大学生と関わりながら、イベントも交えながら活動しているという「のびっこクラブみしま」が入りやすいと思い、始めた。

日本語支援自体は始めたばかりだが、石井さんをはじめ、ボランティアの皆様と協力して、足を引っ張らずやっていきたい。

富士宮市国際交流協会 (望月)

- ・ 多文化共生委員会で西村さんと防災訓練、学校のボランティア、中学生の進路相談など色んな活動をしていた。
- ・ 今は西村さんがおられなくなり、その行事は残っているが、私は日本語支援に注力している。
- ・ 日本語支援委員会では学校ボランティア、おしゃべりラウンジ（日本人と外国人とが楽しく話す場を与える、防災についての展示や講話など）、日本語教室（日曜日の 10 時～11 時半）を運営している。（プリントで説明）

○学校ボランティア

- ・1年未満の子には毎日、2年目以上の子には2,3割という形で国語をメインに朗読、書道の支援をしている。
- ・7名の子供の支援についての報告 - 課題は、①自己主張が強く、他の子供にちょっかいを出す、我を通すなどの特徴を持つ2人の子、②生活環境に問題のある子の対応。

①他の子とトラブル、授業に差し支えるところを、ボランティアが入り込みで対応したりしている。

②取り出しで対応している。父がほとんど海外におり、母は冬に帰国してしまう。家庭の問題なので難しい。生活上のトラブル等が起きたときは父親と連絡を取ることになっているが・・・ボランティアが何をどこまで出来るかわからない。

- ・ボランティア派遣については、教育委員会から学校に制度についての情報を流している。必要なら学校が教育委員会を通して日本語支援委員会に要請が来る。派遣を始めるときは、学校教育課から派遣された旨の周知のために、課長の方と一緒に挨拶に行く。ボランティアは県と市の養成講座を修了している。

○おしゃべりラウンジ

- ・第3日曜日に開催。他の文化交流のイベントやBBQなどにも行ったりする。

○日本語教室

- ・集金（参加料500円）や場所確保の調整、教材が持ち出しになっていることなど運営に関する負担があるので、この1月から国際交流の行事として発足することにした。
- ・ACC主催で日本語支援ボランティアの養成をしているものの、FAIRのやっている事で、個人情報はいただけないことになっているので、事務局に動いてもらう形でボランティアを増やすよう要請している。

富士宮市国際交流協会（佐野）

- ・教育委員会からの依頼を受け学校支援をしている。望月さんからのお話の通り、学校ボランティアでの子供の問題が大きな課題と感じている。（上記①）の子の取り出しや入り込みをしており、家では家族とうまくいってるようでそれは良いが、友達とうまく馴染めていない。そうしたいという意味が希薄なのか、とにかく他の子が離れていってしまっている。英語が出来るので、役割を与える試みを先生に提案してやってみたものの、2回程度で頓挫してしまった。長い目で見て、またやる気になったらやってみるようにと先生にお願いした。
- ・日本語教室について、1~3月に試験的に10回講座をした。生徒が5,6人で出たり入ったりだが、N2~N4の勉強を学習者の希望で教えた。今も継続している。

富士宮市国際交流協会（垣内）

- ・日本語教室で実習生に教えている。日常生活の会話はできるレベルで、仕事先にも日本語で話したいと伝えているが、日本語ではしゃべってくれず、作業の仕事が合図だけだったりするので、受け入れ企業側が実習生に寄り添っていけるような働きかけができれば良いと思っている。

日大アモール（國井）

- ・のびっこの活動に4月から参加している。先日引継ぎがあり、今月から新リーダーになった。まだ至らないところがあるが引継ぎをしながらがんばっている。
- ・個人的には日本語教員プログラムを専攻していて日本語教師を目指している。
- ・イベントについては、今はクリスマス会の準備をしている。スタッフが集まれる時間が取れなくて難しい状況だが、今後のスポーツ大会やお正月イベントについてもみんなで話し合っ決めていきたい。

- ・ 前の代では大学生が主体で学習者がやや受身になっていると感じることもあったが、ハロウィンのイベントをした時に学習者がギターやリコーダーを演奏したりして楽しんでいたので、学習者が楽しむことの大事さにあらためて気づいた。これからは学習者をより主体にイベントができたら良いと思う。

日大アモール (柴本)

- ・ 7月の七夕のイベントの時、高校生も一緒に参加してくれて、色々勉強になったと言ってくれたり、外部の方が行ってくれた防災の展示を見て興味を持ってきて、活動を知ってもらう機会になったと思う。
- ・ 楽寿園で行ったグローバルフェスタで、学習者がお客さんにクイズを出すミニイベントをやってもらった時に、クイズの出し方が上手な事等、学習者の普段と違う面を見ることが出来てよかった。

のびっこクラブみしま (渡辺)

のびっこについては石井さんから詳しくお話があったので、それ以外のことについて。

○外国人児童生徒支援

- ・ 沼津で小学校、中学校に行かせていただいている、どんな教材が外国人の子供達に良いのか興味を持っている。のびっこでは優秀な大学生が来てくれているので、どんな教材ならわかりやすいか、大学生に提案してもらえたらということをお願いした。快く承諾してくれたが、大学生も忙しそうなので負担にならないか心配し始めている。どうすればうまく関わっていただけるか模索している。見切り発車で始めてしまったので少し反省しており、もう少し検討してから持ちかけたほうが良かったと思っている。
- ・ 沼津のほうでは、虎谷さんにも相談しながら取り組んでいる。学校によって支援の回数がまちまちで、これでよいのか、なんとかしたいと思うことがある。支援の形も、取り出しだけではなく、入り込みもできる。新しく加わるボランティアの負担感を心配される学校もあったが、入り込みならその負担は軽減できるのではと期待している。

○技能実習生

- ・ インドネシア人実習生と関わっている中で思ったこと。ベトナム人実習生と比べると明らかに年齢が若い。スマホをよく活用し、日本中の実習生やOBと頻繁にやり取りしており、九州や東北に旅行に行くなど行動範囲も広い。スマホには遠隔の良い日本語アプリも色々あり、それらを使って勉強している子も多い。その影響もあって教室に来る子が減っているという事情があるかもしれない。
- ・ ベトナム人実習生に関しては、第一外国語に英語と並んで日本語を加えたということもあり、日本語を勉強しなかった上の世代の人も勉強に意欲的なのかなと思う。インドネシアに関しては、高校の選択科目で日本語を選択する子もいるという状態なので、その辺の違いが現れているのかと思う。・・・すみません、第二外国語ではありませんでした。

沼津にほんご教室 (芦川)

- ・ イスラム教徒の方が増えていて対応を考えなければならないと思っている。実際にあった事例で、教室を借りているビル(図書館)でお祈りをされていたということがあって、お祈り自体は問題ないのだが、立入禁止区域でされていたことがあって館長さんに困る旨指摘された。どういう対応があるか考え相談したところ、館長さんの方から、立入禁止区域には入らないよう、お祈り自体はしていただいて構わないので、ここならということで場所を提案していただき、そこでお祈りしていただくことにし、対象となる方に言うようにしている。ただ特別にその方だけに、ポスターなどでこうしてくださいと周知、お願いするのも何か抵抗があるし、対象となる方を見つけ出してわざわざ言うのもやはり抵抗があるので、あまり良い対応が思いつかずふわっとした感じである。現状では、そういう方がいたらそれとなく話しかけてみてくださいと、ボランティアにお願いするという形で対応している。

- ・ 食べ物についても、宗教に加えベジタリアンの対応が必要なことがある。パーティーなどで、そういう方たちでも食べられるものを用意したり、この材料は使わないでくださいとお願いするという対応を始めた。和菓子などは無難だが、牛脂など使われていることに気づきづらいこともあるようなので、調べてから買うようにした。同じベジタリアンでも厳しく守る方は出汁などもダメなので、結構狭まってしまうが、逆に他の方に周知できる機会と捉え、トライしてみても良いのではと思っている。

富士 FILS (小川)

- ・ 原則マンツーマンで指導しているが、問題として先生が不足しており、待機してもらっている状態である。対策として今年からグループの指導も始めた。
- ・ JLPT の受験希望者が多いので、グループを作って始めた。日曜日に N5~N2 の四つのグループを作り、私は N4 を担当している。半年 16 回が 1 クールで、今年は 2 回終わってうまく行っていると感じている。来週反省会をして、来年も継続する予定である。

質問コーナー

○「支援者」と「ボランティア」の区別はどのようになっているのですか？（西村さん）

⇒（虎谷）県の養成講座を修了した人は「支援者」として入ってもらおうとしていて、有償で働いていただこうと思っている。その意味ではボランティアは無償なので区別がある。

（のびっこ佐野）小中学校の学校教育においては、有償の学習支援サポーター、無償の学習支援ボランティアと、所轄分野で呼び方が分かれてることもあるようだ。

（古橋さん）県が派遣しているのは「相談員」、市町は「支援員」という呼び分けが一般的だが、やっていることは同じ。

（虎谷）明確に区別があるわけではない。

（西村）FILS は資格がある人がやっている印象だが、一方では特に資格が無くボランティアという方もいらっしゃる。そもそも、適材適所でどのように配置されればいいのか、そこがよくわからずに混乱しているところがあるのではないかということを考えさせられる。

（相田）体制について私も全然理解できていないので、市町ごとにどういう種類の支援者が、それぞれどのくらいいてどういう協力体制になっているか、マップのようなものが作成できればと思っている。すでに個人的に問い合わせ資料の作成を始めているので、ご協力ください。

熱海 (中村より事前連絡)

- ・ 来日児童支援については過去 3 年、児童の日本語学習支援はありませんでした。
- ・ 現在、フィリピン人（介護士）が 3 名、中国人（日本人配偶者）が 3 名、台湾人（ワーホリ）1 名、タイ人（日本人配偶者）が 1 名、1 回のレッスンに平均 5 名ほど来ています。30 代から 60 代です。先生は日本語講師経験者が 2 名、元学校教師が 1 名で指導をしています。レベルがバラバラなので、1 名の指導者一 2、3 名の生徒、という形式で運営している。

（以上、敬称略）